

会 議 記 録			
会 議 の 名 称	決算特別委員会 産業建設分科会	会議場所	第2委員会室 全員協議会室
		担当職員	佐藤
日 時	令和2年9月16日(水曜日)	開 議	午前 10時 30 分
		閉 議	午後 3時 27 分
出席委員	◎菱田、○赤坂、田中、小川、奥野、藤本、竹田		
出席理事者	<b>【産業観光部】吉村部長</b> [農林振興課] 笹原課長、佐藤担い手支援係長 <b>【まちづくり推進部】並河部長、関事業担当部長</b> [都市計画課] 関口課長、山下計画係長 [都市整備課] 山内課長、石田区画整理担当課長 [まちづくり交通課] 伊豆田課長 [桂川・道路整備課] 信部課長 [土木管理課] 澤田課長 [建築住宅課] 内藤課長		
出席事務局	鈴木議事調査係長、佐藤主任		
傍聴者	市民0名	報道関係者0名	議員0名

会 議 の 概 要

10 : 30

- 1 開議 (委員長あいさつ)
- 2 事務局日程説明
- 3 付託議案審査 (説明～質疑)

[まちづくり推進部入室]

- ・まちづくり推進部長あいさつ

- ◎第6号議案 令和元年度亀岡市一般会計決算認定  
 (まちづくり推進部所管分)  
 (2款総務費・8款土木費(4項都市計画費1目都市計画総務費まで))

[説明]

- ・まちづくり推進部所管課長・担当課長、順次説明(歳出歳入一括)

11 : 10

《質疑》

<小川委員>

188ページ、道路維持費の凍結防止剤散布等委託料について、まき方にばらつきがあると思うが、散布基準はあるのか。

<土木管理課長>

幹線道路を含め60路線で10契約締結している。基準としては、夜間に降雪

が見受けられるときに散布する。機械まきと手まきがあり、機械まきは均一にまけるが、手まきについては、人が手でまくのでどうしてもまばらになってしまう。その辺りについては、今後行政指導等を実施していく。

<小川委員>

雪が降っていないのにまかれていたり、必要なところにまかれていなかったりするので、徹底するように要望しておく。

<藤本委員>

187ページ、コミュニティバス・ふるさとバスの経費について、乗ってもらえるような啓発はしているのか。

<まちづくり交通課長>

持続可能な公共交通となるように、亀岡市地域公共交通会議を開催し、利用者増に向けて様々な取組を実施していただいている。また、公共交通網形成計画において、フリー乗降や大人のための乗り方教室などの施策を展開しながら利用者増に努めていきたいと考える。

<田中委員>

185ページ、自転車等駐車場経費について、各駐輪場の稼働率は。

<土木管理課長>

平成30年度については、JR亀岡駅南45.5%、駅北56.8%、JR馬堀駅35.1%、JR並河駅103.4%、JR千代川駅22.3%である。令和元年度については、JR亀岡駅南45.5%、駅北57.6%、JR馬堀駅33.1%、JR並河駅101.9%、JR千代川駅20%である。

<田中委員>

JR並河駅以外は空きが多いが、何か手だては打っているのか。

<土木管理課長>

昨年までは、利用料金制と違い、収入は亀岡市が一括で吸い上げていた。この4月から、利用料金制に変えたので、指定管理者が客を呼び込む手だてをされれば、収入が増えるので様々な手立てを実施していただいている。

<田中委員>

今年度は改善しているのか。

<土木管理課長>

コロナの影響で、在宅勤務等があり、7月までで対前年度比65%ほどになっている。

<田中委員>

188ページ、道路橋梁総務費の道路台帳補正作業委託料について、委託業者はどこか。

<土木管理課長>

国際航業株式会社である。

<田中委員>

入札なのか。

<土木管理課長>

資料を持ち合わせていないので、後ほどお答えする。

<田中委員>

190ページ、橋梁維持費の調査・測量・設計業務委託料の内訳と業者はどこか。

<土木管理課長>

4橋のうち2橋については、NEXCO西日本に委託し、委託料は886万3,833円である。残りの2橋は、京都技術サポートセンターであり、橋梁点検と長寿命化計画を合わせて委託しており、219万5,600円である。

<田中委員>

192ページ、上桂川治水対策費の亀岡市桂川改修促進期成同盟について、活動状況は。

<まちづくり推進部長>

毎年、役員会で活動計画を立てられ、夏に総会をされている。要望活動としては、国や国会議員、近畿地方整備局、京都府、京都府南丹広域振興局に行かれている。

<奥野委員>

188ページ、道路維持費の凍結防止剤散布等委託料について、防止剤を含んだ委託なのか。

<土木管理課長>

防止剤は市から渡している。

<奥野委員>

粒度が粗いため、バイクがこけたという話もあったがどうか。

<土木管理課長>

長く放置されていれば、固まりができることもある。また、京都府は塩化カルシウム、亀岡市は塩化ナトリウムをまくので、府道と市道でも違うため、粒度に違いが生じているのかもしれない。

<菱田委員長>

西別院町のわがまちトークで、防止剤が多くまかれ過ぎて固まりになっているところや、車が走ることにより、防止剤が路肩に多く集まり、そこを通ったバイクがこけるという話が出ていたので、注意いただくようお願いしておく。

<藤本委員>

188ページ、土木管理事務経費の負担金の京都丹波基幹交通整備協議会と国道423号整備促進協議会の具体的な活動内容は。

<桂川・道路整備課長>

京都丹波基幹交通整備協議会は、南丹市・京丹波町・亀岡市で構成されており、定期的な役員会や協議会等を開催している。ダブルルートと京都縦貫自動車道の4車線、JR等について要望活動を行っている。

<藤本委員>

要望は年にどのくらい行くのか。

<桂川・道路整備課長>

年1回程度である。

<赤坂副委員長>

195ページ、JR亀岡駅自由通路等施設管理経費の、のどかめロード昇降機設備等管理業務委託料について、もっと安くできる事業所があると思うがどうか。

<まちづくり交通課長>

JR亀岡駅では1日2万人が利用しており、エレベーターが2基、エスカレーターが2基ある。エレベーター1基当たり、1カ月51,700円、エスカレ

ーター1基当たり、1カ月10万2,850円である。多くの人を利用する亀岡駅であるので、何か故障があれば、すぐに駆けつけてもらえること、また、三菱電機ビルテクノサービスは、多くの在庫を持っているので、止まることなく交換ができること等から、長期継続契約の5カ年で契約しているところである。

<赤坂副委員長>

三菱だけではなく、在庫のあるところもたくさんあり、しっかり点検のできる場所もたくさんある。故障しないような点検ができるようにしてもらいたいと思う。

<まちづくり交通課長>

長期継続契約の見直しの時期には、幅広く研究していきたいと思う。

11:32

[ 休憩 11:32~13:00 ]

13:00

- ◎第6号議案 令和元年度亀岡市一般会計決算認定  
(まちづくり推進部所管分)  
(8款土木費(4項都市計画費2目土地区画整理費から))

[説明]

・まちづくり推進部所管課長・担当課長、順次説明(歳出歳入一括)

13:36

《質疑》

<土木管理課長>

午前中に、お答えできていなかった分について、回答させていただく。188ページ、道路橋梁総務費の道路台帳補正作業委託料について、業者選定方法は指名競争入札である。併せて、奥野委員から質問があった、凍結防止剤散布等委託については、作業代及び、機械のリース代のみであり、防止剤は亀岡市から支給している。また、各委員からいただいたまき方についての意見は、京都府と共有し、今後指導等を実施していく。

<赤坂副委員長>

202ページ、緑花推進経費のききょうの里整備事業補助金について、これは駐車場の整備か。

<都市整備課長>

ききょうの里の整備である。

<赤坂副委員長>

どのような効果があるのか。

<都市整備課長>

昨年度整備を行って、今年度は6月28日~7月31日まで開園していた。入場者数は4,007人で、昨年度は5,816人であったので、コロナ等のた

め減少したと思われる。整備を行ったので、今年は9月19日～10月11日まで、再度開園する。農芸高校の生徒が植え替えを行っており、京都新聞にも取り上げられた。

<赤坂副委員長>

市民に来てもらえるようにPRしてもらいたい。

204ページ、住宅管理経費の修繕について、業者はどのように選定しているのか。

<建築住宅課長>

空き部屋の修繕については、入札によって業者を選定している。水道やガスなど随時の修繕は、前年度の終わり頃に、翌年度の修繕業者を入札で決定し、1年間同じ業者に委託している。量水器の取替えも入札で決定している。

<藤本委員>

202ページ、緑花推進経費の亀岡市都市緑花協会補助金について、何に使われているのか。

<都市整備課長>

人件費と事務所運営経費である。

<藤本委員>

199ページ、公園緑地管理経費のさくら公園について、トイレの修繕は完了したのか。

<都市整備課長>

今年度、入札を行い業者が決定したので、1月末工期の予定で工事にかかる。

<赤坂副委員長>

199ページ、公園緑地管理経費について、行政としてしっかり管理しているのか。

<都市整備課長>

亀岡運動公園等は建築から年数が経っているため、老朽化してきている。修繕が必要な箇所については、指定管理者と市で優先度を決めて修繕をしようとして調整しているところである。今後補正予算や来年度予算で説明させていただくことになると思う。今まで、チェック等が不十分だったところもあったかと思うが、今後はしっかりと整備していく。

<赤坂副委員長>

しっかり補正予算を出して、完全に直してほしい。要望しておく。

<奥野委員>

亀岡運動公園体育館の空調設備について、部分稼働できるのか。

<都市整備課長>

空調を分割することはできないが、大体育館については1階と2階で分けることができる。

<小川委員>

206ページ、空家等対策事業経費の空き家抽出調査は毎年実施しているのか。

<建築住宅課長>

平成28年度から実施しており、ゼンリンから、地図上で表札がない家や不動産のあっせんの看板等が立っている家を抽出した一覧をいただいている。平成28年当時に、そのような空き家が、990軒あった。その990軒のうち、平成28年度に100軒、平成29年度に200軒、平成30年度に200軒、

令和元年度に290軒、令和2年度に残りの100軒を調査し、まとめていく予定である。

<小川委員>

相談対応の内容と実績は。

<建築住宅課長>

令和元年度の相談対応は29件となっており、空き家の状態等について、電話や窓口で相談があった。その29件の相談に対して、現地調査を行った結果、「問題なし」と判断した空き家が3軒、「問題あり」と判断した空き家が26軒あった。その26軒のうち、家自体に問題があったものは15軒、家以外の周辺の草木等に問題があったものは11軒であった。その中で、建築住宅課として、対応ができるものは、家自体に問題のある15軒である。その15軒のうち、調査し、所有者に連絡が取れて、所有者に対応してもらえる約束ができたものが8軒であり、残り7軒は相続等の問題で現在も調査中である。

<小川委員>

所有者に対する、助言等は行っているのか。

<建築住宅課長>

所有者が判明すれば、所有者の責任等を記載した文書を送付するが、そのときに、空き家バンク等の制度を紹介するチラシも同封している。

<菱田委員長>

古民家を再生するような組織と連携しているのか。

<建築住宅課長>

直接的な連携はしていないが、古民家に再生できるような状態のよい空き家があれば今後検討していきたい。

<藤本委員>

空き家990軒のうち、危険な空き家はどのくらいあるのか。

<建築住宅課長>

今年度取りまとめる予定である。

<奥野委員>

ききょうの里について、来年度以降も予算の確保をしっかりとお願いする。要望としておく。

13:57

## ◎第11号議案 令和元年度土地取得事業特別会計決算認定

### [説明]

・まちづくり交通課長説明（歳出歳入一括）

《質疑なし》

[まちづくり推進部退室]

14:00

## 事務事業評価打ち合わせ

<菱田委員長>

本日この後の事務事業評価に入る前に、実施方法等について委員間で打ち合わせを行う。事務局より実施方法等について説明を。

<事務局主任>

(事務事業評価の流れ及び評価シートの説明)

<菱田委員長>

論点を含め、このような内容でよいか。(了)

この後休憩をはさみ、全員協議会室へ移動をお願いします。

14:04

[ 休 憩 14:04～14:30 ]

14:30

## 4 事務事業評価

[産業観光部入室]

### (1) 農業担い手づくり育成事業経費

- ・農林振興課長 資料に基づき説明

14:48

#### 《質疑》

<竹田委員>

農業次世代人材投資事業について、最大の5年が過ぎた後の追跡調査はできているのか。

<農林振興課長>

亀岡市では平成26年から活用していただいております。41人のうち12人が終了している。12人のうち、5人は5年を待たず、1人立ちされた。残りの6人は5年間満了し、1人は家庭の事情で離農された。満了後についても、市の専任マネージャーが随時状況を把握して、相談等にのっている。また、京都府と情報共有しながら、就農状況を確認しているところである。

<藤本委員>

高齢化が進む中で、さらなる支援が必要であるにもかかわらず、各補助金が減っているのはなぜか。

<農林振興課長>

農業を新しく始めたいという人がいなければ、補助金等の経費も発生しないため、年度によって、ばらつきが出る考える。単価について変更はない。

<産業観光部長>

全てのものではないが、一部予算を下げている事業もある。新規就農者の数が減っただけではなく、自立されたり、法人を作られたりして、制度から外れら

れたため、年度ごとに若干の増減が出てくることもある。

<田中委員>

農業の就業人口が減り、高齢化が進んでいるというのはそのとおりである。集落営農を立ち上げて、退職した60歳代の人ややるので、長くやっていくのは難しい。農業の中身を変えていく必要があると思うが、今後の農業をどのように考えているのか。

<農林振興課長>

農地整備により、大規模農業が多くなっているため、地域で組織を立ち上げて、地域で農業を守っていかうとされている。国はスマート農業を推進しているが、機械を扱わなければならない人も高齢化しており、また、経費もかかるため難しいところであると考えている。

<産業観光部長>

これまでは、外国人就労者や機械化等で補っていたが、それだけでは追いつかないため、京力農場プランの中で、新たに中間管理機構の活用などを含めて、今後どのように農業を担っていくのかについて、集落営農組織ごとに検討いただいているところである。

<田中委員>

集落営農が40法人あるが、経営状況は。

<農林振興課長>

農事組合法人ほづは、3名の従業員を雇用されて、保津町全域を対象にして農業をされている。最近新たに吉川町も組織を立ち上げられた。河原林町も奨励金等を活用して運営されている。

<田中委員>

農事組合法人ほづは、スマート農業をされているが、経営状況は。

<農林振興課長>

赤字まではいかないが、最低ラインのところでは運営されていると聞いている。

<田中委員>

専任マネージャーはどのような役割を果たして、どのような成果が出ているのか。

<農林振興課長>

新規就農者や中間的な就農者の指導等を行っている。法人経営については、京都府に農業会議という経営の相談窓口があり、そちらを紹介している。

<竹田委員>

亀岡市に、新規就農者の若者同士が集まって、営農組織を作っている事例はないのか。

<農林振興課長>

馬路町で、4人の新規就農者が集まって、すずめファームという組織を作っている。

<竹田委員>

その組織は、馬路町の農事組合法人とうまく連携してやっておられるのか。

<農林振興課長>

連携してやっておられる。

## 《評価》

### ＜菱田委員長＞

各委員は個人採点について、順次報告願う。

#### ・赤坂副委員長

必要性：5点、妥当性：5点、効率性・費用対効果：1点、成果：1点

#### ・田中委員

必要性：4点、妥当性：3点、効率性・費用対効果：3点、成果：3点

#### ・小川委員

必要性：5点、妥当性：4点、効率性・費用対効果：3点、成果：2点

#### ・奥野委員

必要性：4点、妥当性：4点、効率性・費用対効果：3点、成果：3点

#### ・藤本委員

必要性：5点、妥当性：4点、効率性・費用対効果：3点、成果：2点

#### ・竹田委員

必要性：5点、妥当性：5点、効率性・費用対効果：3点、成果：3点

15 : 14

## 《総合評価結果のまとめ》

### ＜菱田委員長＞

各委員の点数を合計して、100点換算した結果、分科会としての点数は69点となり、評価基準は「3おおむね適正である」となった。この評価点数・評価基準を踏まえて、総合評価結果について協議を行いたいと思うが、意見はあるか。

### ＜赤坂副委員長＞

総合的に考えると課題が多くある。今まで同じようなやり方でずっとやってこられたが、しっかり予算を確保して、新しいことをやっていただきたい。表現は難しいが、事業内容を見直しつつ、拡充してもらいたい。

### ＜小川委員＞

担い手の育成は非常に重要なことで、必要性もある。その中で課題も多くあるので、事業の中身を見直し、いろいろな地域に入ってもらい、地域の課題を含めて担い手の育成をしていただきたい。かめおか霧の芸術祭とも一緒になり取り組んでおられるので、さらに頑張ってもらいたい。

### ＜田中委員＞

「効率性・費用対効果」、「成果」が総体的に低くなっているなので、見直しの上拡充していくことが大事であると思う。

### ＜藤本委員＞

見直しの上、継続・拡充が大事であると考えている。若い人が就農できるような制度にしていかなければならないし、集落営農の確立や農業の企業化の推進等、行政がしっかり支援していく必要があると考える。

<竹田委員>

専任マネージャーの存在が非常に気になる。営農組織までは手が回らないということだが、新規就農者についてはしっかりやってもらわなければならないのに、人件費が安すぎると感じる。これでは、しっかりコーディネートできる人が来てくれない。今は1人しかおられないが、複数人来てもらって、いろいろな方法をコーディネートしていただきたいので、見直しの上継続であると考え。

<奥野委員>

見直しの上継続・拡充であると考え。就農者の収入がサラリーマン並になるようにしていくことが必要である。補助金を入れても、農業をする人がその気にならなければ意味がない。各集落に入っていく、いろいろな話を聞いていく必要があり、その辺りの手法の見直しが必要である。

<菱田委員長>

各委員から意見が出たが、担当部から意見はあるか。

<産業観光部長>

いただいた意見を参考にしながら、事業を見直して制度の充実を図っていきたいと考える。農業基盤の整備やスマート農業の推進、有害鳥獣の対策、地域ブランドの確立等を含めて、収益性の向上を図りながら一体的に進めてまいりたいと考える。

<菱田委員長>

委員会としてまとめると、農業担い手づくり育成事業経費について、事業の見直しを行いつつ、「1拡充」でお願いしたい。新規就農者について、一定成果は出ているので、補助金頼みではなく、いかに人を育てるかが大事になってくる。そういった意味でも、担い手専任マネージャーの取組を充実させ、集落営農についても維持・発展していくように指導していただきたい。委員会としては、このようにまとめたいと思う。文言は正副委員長に一任願う。(了)

～散会 15:27